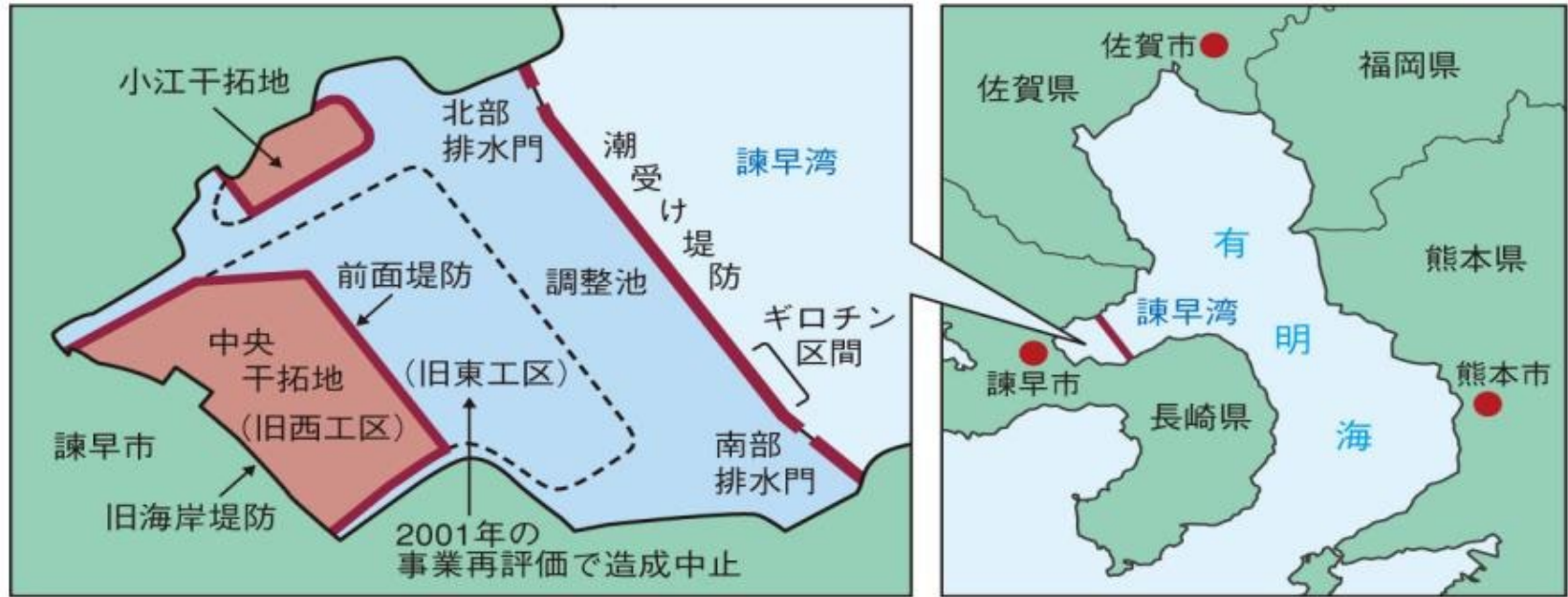


諫早湾干拓の開門から有明海再生へ



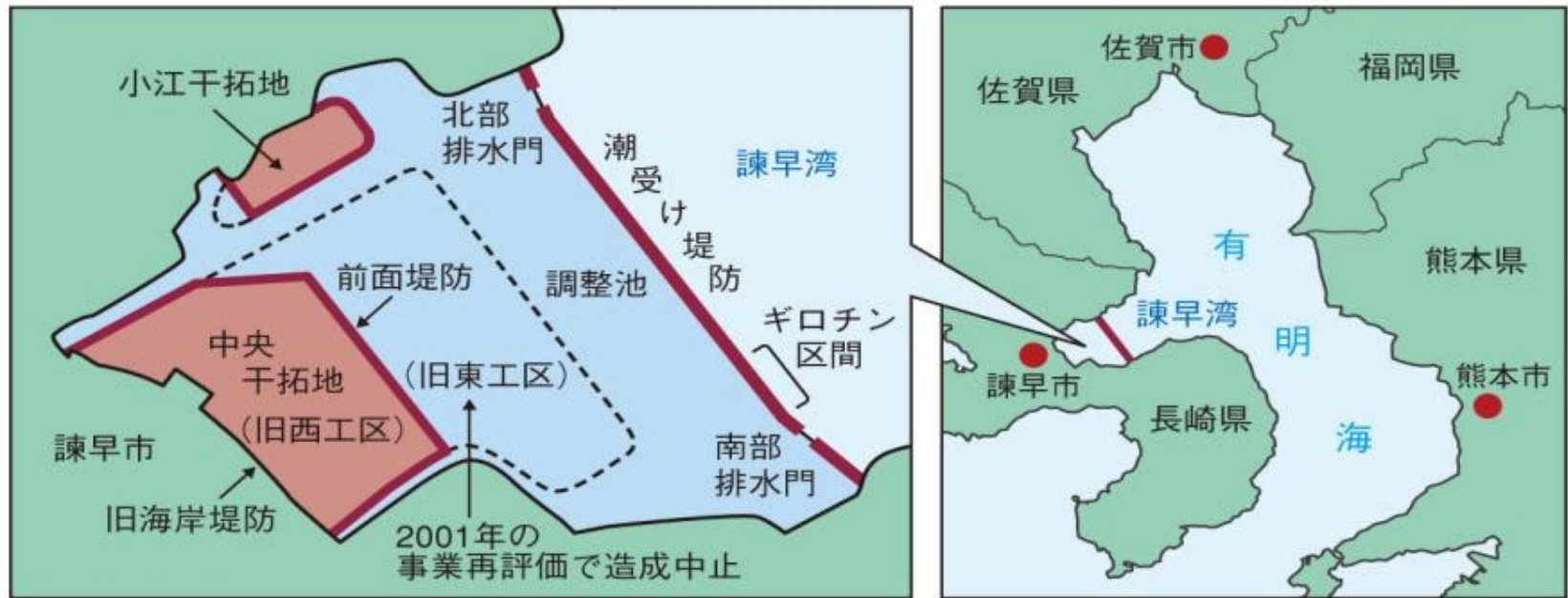
2023/9/28 院内集会『公共事業を糾す』
有明海漁民・市民ネットワーク 菅波 完

諫早湾干拓事業の概要



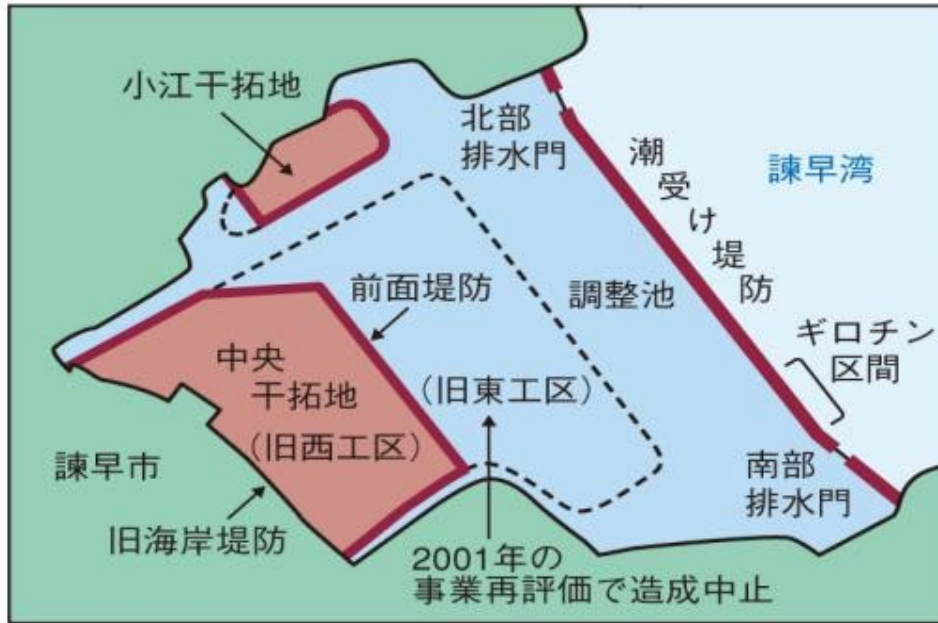
諫早湾の奥部、3550haを潮受堤防で閉め切り、淡水の調整池と農地を造成する複式干拓事業。目的は**優良農地の造成と防災機能の強化**。1989年着工→1997年堤防閉切→2008年営農開始。2000年12月**赤潮大発生**→**ノリ大不作**→**開門**が焦点に。

司法は「非開門で統一」は大きな誤解



2010年12月 福岡高裁の開門命じる判決が確定。
2022年4月 福岡高裁が国による請求異議を認め、
2023年3月 最高裁は漁業の上告を棄却したが、
開門確定判決は有効。国は今も開門義務を負っている。
開門は防災に支障なし／事業の漁業被害：裁判で認定済。

有明海は自然の力で（のみ）再生する



有明海異変：赤潮頻発→底層の貧酸素化→漁業被害は、諫早湾の堤防閉め切りによる潮流潮汐減少が主因。開門（調整池への海水導入・海水交換の復活）すれば、調整池の汽水化、干潟の再生、潮流潮汐の回復により、漁業回復・地域の分断解消＝有明海再生が期待できる。

「開門」は、農業・漁業・防災を
両立させるための第一歩

